

編集後記

東日本大震災からもう2年が経とうとしております。震災で亡くなられた方々にお悔やみ申し上げます。合掌。被災された方々、その後の福島第一原発の事故で今なお苦しんでおられる方々にお見舞い申し上げます。

地震直後の数日間は、余震が頻繁に起こる中、停電、断水が起こり、家族の安否が確認できない状況で、室内の散乱した中から、食料、懐中電灯、ラジオ等を探し出し、生活をしました。いわば、屋内キャンプをしている状況でした。そんな中で、家族や地域の方々との絆が深まりました。

東海村から東北へ行くのに、特に冬の時期は、太平洋側の道を通り、福島県のいろいろな場所でお祭り、キャンプ、スキー、山歩きなどを楽しみました。その通り道にあるいくつかの場所(道の駅やJヴィレッジ)が福島原発事故対応の拠点になり、起こってはならないことが起こったと、福島支援に行った時に改めて認識しました。

大学を卒業して、核融合研究に入った頃は、今頃は「核融合発電」ができていて漠然と思っていました。核融合

研究者として残念なことは、「核融合発電」というすばらしい発電方法があります、「使いましょう」と国民の皆様に提示できなかったことです。

昨年発表された地震調査委員会の情報では、30年以内に震度6弱以上の地震に遭遇する可能性が高いことを多くの地域で示しています。私を含めて、多くの人々が、再び同じような大震災に遭遇することを覚悟しなければならないでしょう。

「災害は忘れたころにやってくる。」の名言を肝に銘じつつ、地震のことを後世に伝えることにも注意を払う必要があります。津波に対して多くの注意を払っていた三陸の人々の中に、被害に遭われた方とそうでない方がおられたことは、この名言をどう肝に銘じるかの難しさがあると思われれます。私自身、大震災直後の余震が頻発していた時期は、又大地震がくると想定して行動していましたが、その行動を今も維持することはなかなか難しいです。3月11日、9月1日、1月17日は、自分の行動を反省する時にしたいものです。(佐藤正泰)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	小川 雄一	副会長	斧 高一	二宮 博正(推薦委員長)	常務理事	西村 新(総務委員長)
理 事	疇地 宏		安藤 晃		石原 修(研究部会連絡委員長)	
	上杉 喜彦		甲斐 俊也		小森 彰夫(支部・地区研究連絡委員長)	
	坂本 慶司(広報委員長)		清水 克祐(財務委員長)		白谷 正治(年会運営委員長)	
	永津 雅章(企画委員長)		福山 淳		堀池 寛	
	山崎 耕造		米田 仁紀(編集委員長)			
監 事	市村 真		中澤 一郎			

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：米田仁紀(電通大) 副委員長：上杉喜彦(金沢大)
エディタ：安藤 晃(東北大)、坂本瑞樹(筑波大)、中村祐司(京大)、村上匡且(阪大)、室賀健夫(核融合研)、佐々木浩一(北大)
編集委員：石田 學(JAXA)、伊藤剛仁(阪大)、井 通暁(東大)、今井 誠(京大)、岩本晃史(核融合研)、大場恭子(東工大)、岡本 敦(東北大)、梶村好宏(明石高専)、菊池崇志(長岡技科大)、古賀麻由子(兵庫県立大)、佐々木 明(原子力機構)、佐竹真介(核融合研)、佐藤正泰(原子力機構)、杉山貴彦(名大)、高橋和生(京都工繊大)、田中将裕(核融合研)、土屋 文(名城大)、成嶋吉朗(核融合研)、長谷川裕記(核融合研)、廣瀬貴規(原子力機構)、福山隆雄(愛媛大)、藤澤彰英(九大)、松浦寛人(大阪府立大)、村中崇信(中京大)、籾内俊毅(阪大)、山田英明(産総研)、山家清之(新潟大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第89巻第2号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階 印刷 株式会社荒川印刷
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会 2013年(平成25年)2月25日
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: http://www.jspf.or.jp/ 定価1,365円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。